



障害者の「働きたい」思いに応え 喜びと生き甲斐を追求する

障害者就労継続支援事業所として、利用者の労働意欲を育てるべく地域で尽力している『育芽会』。多様な種目の作業や社会見学、スポーツ大会など、幅広い取り組みを通して社会生活に必要な生活習慣・教養を養っている。本日は、大西結花さんが同事業所を訪問した。

大西 まずは、青谷理事長の歩みからお聞かせ下さい。

青谷 地元で生まれ育ちました。学業修了後、電子機器関係の会社に25年勤めていました。1982年に母が無認可施設『三次共同作業所』を設立し、2001年、社会福祉法人『育芽会』として活動していたところ母が体調を崩したことを受けて、私が施設長職を継ぎました。当作業所では、ものづくりを中心とした色々な仕事を通して、障害者の方の就労支援を行っています。

大西 一般企業から、福祉のお仕事に転身されたわけですね。手掛けられてみていかがでしたか。

青谷 会社勤めの際でも、休みの時は作

業所で仕事をしていましたから特別な違和感はありませんでした。また、スタッフの働きに助けられて今日まで続けてこれられました。利用者さんが取り組まれるものづくりの現場においては、勤務時代のノウハウが役に立っています。

大西 それはどういったことで？

青谷 たとえば、ものづくりには各工程があります。どの工程をやり易くすれば利用者さんが間違えずに楽しくくれるかを工夫します。より効率的に作業を覚えてもらうためのルールづくりも大切です。また、お給料は基本給に加え能力給の査定を設けています。そうすれば利用者さんは自分にできる仕事の幅を少しでも広げようと意欲を高めてくれますし、一般の会社で働くのと同じ姿勢で取り組むことができるんですよ。ただ、能力給を上げるのは本人

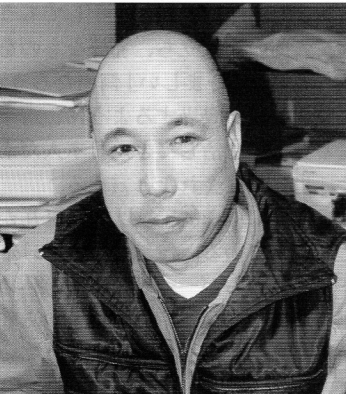
の努力もありますが、スタッフがどれだけ教えていくかがポイントになります。大西 利用者さんと接する上で、普段から大切にされていることは何ですか。

青谷 「やる前から“できない”と言わず、どうすればできるかを考える」ということを皆さんに伝えていています。どんな仕事でも、最初からできる人はいませんよ。より早くできるようになるための環境を整えてあげることが、私共の仕事であると思っています。また仕事ばかりではなく、スポーツなど遊びも精一杯楽しんでもらうことを大切にしていますね。今年も、県の障害者さんが集まるスポーツ大会にも参加します。

大西 このお仕事の様子や甲斐は、どういった部分に感じられますか。

青谷 やはり、利用者さんが一つひとつの仕事覚えて成長していく過程を見られることが嬉しいですね。これまで育んできたスタッフ・利用者さんとの和の強さは、どこにも負けなと思います。スポーツにしても、国体へ出場できるレベルに育てたいです。今後も皆で協力して、成長を重ねていきたいですね。

(2014年2月取材)



理事長
青谷 龍男

利用者との信頼関係を大切に、日々の指導に臨んでいる。「一生懸命働いて、一生懸命遊ぶことですよ」との言葉からは、利用者への深い愛情が窺えた。パラリンピックへの出場が夢であるという。実現に向けて是非頑張ってください！

社会福祉法人 育芽会
広島県三次市南畑敷町 342-3
TEL / FAX 0824-63-2963
URL : <http://www.16.ocn.ne.jp/~ikugakai/>